

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520062

研究課題名(和文) 中世タミル語の聖徒列伝『ペリヤ・プラーナム』の批判的翻訳と文学的・思想史的研究

研究課題名(英文) A Critical Translation and of the Tamil Hagiography, Periya-puranam

研究代表者

山下 博司 (Yamashita, Hiroshi)

東北大学・国際文化研究科・教授

研究者番号：20230427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の期間内に、タミル・ヒンドゥー教の聖徒列伝『ティルトンダル・プラーナム』(通称『ペリヤ・プラーナム』)の核心部分(重要聖者にまつわる中心的説話等)に対し批判的な日本語訳を施し、翻訳出版の基礎を整えた。さらに、上記作業に関わる副産物として、専門研究者向けの英語による共著 A Concise History of South India: Issues and Interpretations(Delhi: Oxford University Press, 2014)、及び一般向けの単著『古代インドの思想 - 自然・文明・宗教 - 』(ちくま新書、2014年)等も執筆・公刊し、成果を広く発信し得た。

研究成果の概要(英文)：Within the period of this research project, an abridged critical translation into Japanese of the Tiruttondarpuranam commonly known as Periyapuram in short, a hagiography of Nayanmars of the devotional phase of Tamil medieval Hinduism was accomplished in a strictly philological way. In addition, as the by-products of the above research, several publications in the related subjects were issued for academics and intellectuals. Among them is "A Concise History of South India: Issues and Interpretations" (edited by Noboru Karashima, published by Oxford University Press, 2014). Another one is "Kodai India no Shisou: Shizen, Bunmei, Shuukyoku (=Ancient Indian Thoughts: Nature, Civilization and Religions)" of my single authorship, published by Chikuma Shobou, Tokyo (2014).

研究分野：インド思想史・宗教史

キーワード：ヒンドゥー教 タミル語 バクティ タミルナードゥ 聖者 聖徒列伝 シヴァ派 帰依信仰

## 1. 研究開始当初の背景

中世以降のインド思想史を彩るバクティは、来歴をウパニシャッドや『バガヴァッドギーター』にも辿り得るが、大きなうねりとなって宗教史上に登場してくるのは7世紀前後のタミル語宗教詩においてである。ヴィシュヌ派のアルヴァール、シヴァ派のナーヤナールと総称される信徒たちが、神への熱烈な帰依の情を詩歌や行為に託し、「バクティの宗教」を民衆の間に広めたのである。研究対象とする『ペリヤ・プラーナム』は、正式には『ティルットンダル・プラーナム』と称し、63人のナーヤナール(初期タミル・シヴァ教の聖者たち)の伝奇を集成したものである。彼らの数奇な人生は真正なバクティのあり方を例示するものとされ、逸話集はシヴァ教徒の間に流布し、彼らの神観念や宗教観の重要な一部を構成するものとなる一方、誤ったナーヤナール像の形成にも寄与してきた。

ナーヤナールが示したバクティには、伝統的諸規範を逸脱する殺生や自傷行為を伴うものすらあり、それらを綴った本文献は、稀有なバクティ作品として特異な文学的・宗教的意義を帯びたものとなっている。この事実は、当時のバクティのヒンドゥー教の信者たちが、下層民を含む広範な民衆から構成されていたことを暗示している。ナーヤナールに多数の非バラモンが含まれていたことも想起すべきであろう。タミル古代の神観念に通じる要素なども散見する。

こうしたことは、この類稀な宗教文学作品が、古代南インドの宗教を基盤としつつ、非バラモンの大衆をも巻き込んだバクティ運動が成立してくる様子を窺う手がかりになるものであり、大きな史料価値をも有することを示唆している。

代表者は論文や著書の中で本文献の重要性を指摘してきたが、批判的研究は緒に就いたばかりである。邦訳を完成させ十全な形で学界に紹介する段階に来ている。代表者は、マドラス大学でタミル語のバクティ先行文献を渉獵して学位論文に纏めて以来、南インドのバクティ的宗教伝統について継続的に研究してきた。今回の研究計画も、これらの延長上に位置するものである。『ペリヤ・プラーナム』についての先行研究は、いずれも信者の立場からのもので、正しい時代考証、批判的な研究姿勢を欠いている。僅かに

MacGlashan の研究 (*The History of the Holy Servants of the Lord*, Victoria: Trafford Publishing, 2006) に見るべきものがあるが、文献学的な不備も観察され、克服されるべき課題も少なくない。

## 2. 研究の目的

本研究は、南インド・タミルナドゥのシヴァ教で枢要な位置を占める聖徒列伝『ペリヤ・プラーナム』(セーッキラール作、12世紀)を取り上げ、タミル文献学の方法に依拠した厳密な邦訳の完成を期するとともに、その文学的および宗教史的・思想史的意義について多面的に討究するものである。

本作品は7~8世紀前後の最初期のシヴァ信徒の伝奇を綴った作品とされるが、成立がそれより4~5世紀下ることから、その間の諸事情の推移を反映していることが推定される。しかし稀有な文学的魅力ゆえ無批判に民衆に受け入れられ、バクティ黎明期についての誤ったイメージや観念の形成に寄与してきた。本研究では、訳出作業に加え、記述内容を批判的に吟味して当時のタミル・ヒンドゥー教の実相を明らかにし、バクティの成立をめぐる歴史的・思想的事実関係を学術的に整理し再構築することを目的とする。

本研究は、『ペリヤ・プラーナム』の翻訳出版の明確な見通しを得ることを到達目標の一つに掲げて行われるものであり、最終年度には、たとえ抄訳であれ早期の出版が叶う段階に達することを目標としたい。

## 3. 研究の方法

本作品は分量的に浩瀚で、言語的にも難度が高く、註釈書の併読による読解が必須である。校訂と翻訳研究に5年の期間を要すると想定のもと本計画を策定した。

研究計画の2本柱である「翻訳」と「研究」には、当該の言語と宗教史に通じたタミル学者の協力が不可欠であり、在外の研究者も動員しつつ翻訳作業および研究活動を進める。

初年度は基本資料・最新資料の収集および協力者との綿密な打ち合わせを経て、翌年度以降に具体的な作業を行っていく。最終年には、訳文全体の確定作業を行い、同時並行的に報告書の作成と訳書刊行の準備を進める。

研究計画終了後の然るべき時期に別途出版助成を得て詳細な学術的解題付きの訳書を出版社から公刊し、成果を学界だけでなく一般にも還元するよう最大限の配慮を尽くす。

#### 4. 研究成果

本研究の期間内に、タミル・ヒンドゥー教の聖徒列伝『ティルットンダル・プラーナム』(通称『ペリヤ・プラーナム』)の核心部分(重要聖者にまつわる中心的説話等)に対し批判的な日本語訳を施し、翻訳出版の基礎を整えた。さらに、上記作業に関わる副産物として、専門研究者向けの英語による共著で東京大学の辛島昇名誉教授(南インド史)の編による *A Concise History of South India: Issues and Interpretations* (Delhi: Oxford University Press, 2014)、及び一般向けの単著『古代インドの思想 - 自然・文明・宗教 - 』(ちくま新書、2014年)等も執筆・公刊し、成果を広く発信し得た。

このうち、本研究計画の研究成果としてすでに公開済みのものとして最も重要なのは、*A Concise History of South India: Issues and Interpretations* に掲載された南インド・タミルナードゥにおける紀元後 10 世紀から 12 世紀にかけての "Language and Literature" と題する宗教文学史の項である。その中で代表者は、南インド内の他地域・他言語圏の動向に照らし、それらとの比較の上で当該研究課題に関係する背景事情や作品解説をおこなっており、この種の研究蓄積の乏しい我が国の学界に紹介し得たことは幸いであった。

本研究計画に沿った、和訳を含む最終成果は、取り纏めの上、近日中に出版及び公開すべく必要な準備作業を鋭意進めつつある。それによって、ヒンドゥー教研究の一角に然るべき貢献を果たすことを期するものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

山下博司「ヒンドゥー教の地獄」、『大法輪』 2016 年 7 月号所収、計 4 頁

山下博司「ヒンドゥー教の『バガヴァッドギター』」、『大法輪』、2015 年 6 月号、120-125 頁

山下博司「インド 4000 年の宗教史を紐解く - 宗教の曙から最新動向まで - 」(査読有)『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容 研究プロジェクト報告書』第号(東北学院大学オープン・リサーチ・センター) 2012、139~153 頁

山下博司「『ティルットンダル・プラーナム』とバクタをめぐる諸問題」、『宗教研究』第 84(367)、(2011)、(第 4 輯) -]山下博司

〔学会発表〕(計 1 件)

山下博司「インドの宗教事情-宗教多元主義国家の光と影-」、東北学院大学ヨーロッパ文化研究所公開講演会、東北学院大学文学部、2011.6.14.

〔図書〕(計 8 件)

山下博司「マラーラム文字」「タミル文字」、庄司博史編『世界の文字事典』所収、丸善出版、2015、246-251、276-281 頁

山下博司『古代インドの思想 - 自然・文明・宗教 - 』(ちくま新書)筑摩書房、2014、全 238 頁

Hiroshi Yamashita "Language and Literature ", Noboru Karashima ed., *A Concise History of South India: Issues and Interpretations*, Delhi: Oxford University Press, 2014, pp.151-156.

山下博司「南インドのバクティ運動」「インド系ディアスポラとヒンドゥー教」「ヨーガとスィットル」「東南アジアのインド系移民の宗教」、世界宗教百科事典編集委員会編・井上順孝(編集主幹)『世界宗教百科事典』丸善出版、2012、504~505、518~519、522~523、552~553 頁

山下博司「世界の宗教潮流:ヒンドゥー教」,「世界宗教の聖典:ヒンドゥー教」,「宗教の基礎用語:バクティ」,「宗教の基礎用語:ヨーガ」,山折哲雄監修(川村邦光・市川裕・大塚和夫・奥山直司・山中弘編集)『宗教の事典』朝倉書店、2012、156-168、575-581、879-881、897-899 頁

山下博司「南インドのヒンドゥー教」,立川武蔵・杉本良男・海津正倫編『朝倉世界地理講座 4 南アジア』朝倉書店、2012、323

～ 331 頁

山下博司「タミル文学（韻文の形式、現代文学）」「民謡（南インド）」、辛島昇・前田専学他編『新版 南アジアを知る事典』平凡社、2012、476, 789-790 頁

Hiroshi Yamashita "Saint Ramalingar and the Exemplification of God as Effulgence", Iwao SHIMA, Teiji SAKATA, Katsuyuki IDA (eds.), The Historical Development of the Bhakti Movement in India: Theory and Practice, Delhi: Manohar, 2011, pp.265-288.

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山下 博司 (YAMASHITA, HIROSHI)  
東北大学・大学院国際文化研究科・教授  
研究者番号：20230427

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：